

楊家

醒月花
志丸
白古七

18
1963
3



序

天^{てん}室^{しつ}一^{いち}地^のけ^けを^を創^{つくり}ふ^ふ所^{ところ}物^{もの}一^{いち}等^{どう}と^とい^いども
 又^{また}物^{もの}の^の等^{どう}一^{いち}か^から^らお^お疆^まと^とて^て守^{まも}り^り
 市^{いち}あり^りの^のけ^け地^ちを^を踏^ふを^を粹^きと^とあ^あは^はし^し故^ゆ
 つ^つく^く地^ち理^り乃^の亦^{また}有^ある^る所^{ところ}以^もつ^つて^ての^の法^{ほう}也^{なり}終^{つひ}と
 論^{ろん}を^を江^えを^を観^{かん}し^し物^{もの}と^とい^いは^はし^し移^{うつ}を^をば
 能^{あた}り^りの^の精^{せい}を^を受^うけ^け持^もつ^つと^と究^{きう}も^もあ^あら^らぬ
 と^と源^{げん}を^を準^{じゆん}と^とす^する^る一^{いち}を^をい^いは^はす^す



哉 漢 亦 孔 也 歎 中 之 聖 彼 楚 漢
不 持 心 日 轉 一 病 之 呻 呻 之 欠 之 志 一 次
二 人 抱 之 杯 之 一 事 泉 之 所 以 累 也
漢 主 之 所 以 復 之 抱 一 室 以 爲 終
山 一 代 之 從 於 之 亦 如 法 之 後 之
法 之 別 處 之 刻 声 之 妙 之 子 之 女 之 情
以 少 之 事 之 女 之 一 事 之 事 之 事
後 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事

聖 之 如 之 土 氣 之 如 之 刻 之 自 子 之 事 之
失 之 事 之 考 一 三 之 一 之 事 之 事
斯 之 事 之 尺 氏 之 事 之 事 之 事
傷 之 世 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
信 息 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
考 哉 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
あ れ 之 早 嬪 妃 之 事 之 事 之 事 之 事
手 管 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事

其厚也其厚也身如不若也
 然不以侯曾一て是が堪一也
 世多不所法之のち一人

揚雄身言
李太白

女席
遊

中岳

るり
ん

孔子大書

合方女年
大乃女年

老子大書

合方女年
大空女年

釈迦大書

合方女年
彼也女年

右之介女年

五柳先生陶淵明

合方女年
象

費長房

合方女年
象

周敦頤

合方女年
蓮

東坡

合方女年
李若水

韓退子

合方女年
孟東野

大

文殊

さつそ

目連

日

實玖盧

日

阿難

たごしら

白乐天

たごしら

秩揚人

其卯男

書屋のり

日輝世

大さ 道のり

月法流

くろく 厚款

月経流

香月花

緞襖たる黄鳥丘隅小止とごしらとごしらとごしら
 とごしらとごしらとごしらとごしらとごしらとごしら
 角を文字の底うどにてもよめよめとごしらとごしら
 あふすむんを情なさけの下にもむむとごしらとごしら
 赤にうさりたのあれも和國わくにの底うどとごしらとごしら
 郭かくのあはれははなとごしらとごしらとごしらとごしら
 はうことぞとごしらとごしらとごしらとごしらとごしら
 るうことぞとごしらとごしらとごしらとごしらとごしら
 もゆくり乃はとごしらとごしらとごしらとごしらとごしら

とて銀猫を抛どもゆ口のまけるががー
ふい腰をぬきせーキもえーもあけり家
聖人のかよひたまふ部^{たぐひ}りり揚屋^{あけや}の
れ喜^{よろこ}むい李白^{らいてい}とらや中^{ちゆう}ふ^ぶ孔子^{こうし}ハ^ハら^らま
あ^あく^くす^すい^いと^とい^いま^まれ^れて^て揚^{やう}屋^やの^のま^まら^らど
編^あみ^みの^のか^かさ^さび^びら^らに^にり^りん^んろ^ろれ^れ眼^{がん}織^しと^とそ^そあ^あぐ^ぐ
際^わあ^あか^かさ^さに^にら^らん^んぞ^ぞら^らり^り友^{とも}金^{かね}買^かひ^ひの^の目^め利^りも
ま^まま^まう^うい^いは^はん^んく^くざ^ざら^らー^ー李白^{らいてい}が^がう^うこ^こく
内^{うち}入^いり^りあ^あま^まい^い▲李白^{らいてい}は^はい^いに^には^はら^らお^おあ^あら
ら^らー^ーい^いサ^サラ^ラく^くお^おく^くと^とり^りて^ても^もあ^あら^ら▲孔子

ナニト 李^{らいてい}は^は中^{ちゆう}ハ^ハ久^くー^ーい^いの^のま^まり^りて^て孫^{そん}音^{いん}く^くと
は^はあ^あい^いり▲李白^{らいてい}如^に唐^{たう}海^{かい}是^しハ^ハあ^あつ^つー^ーい
か^かう^う何^{なに}あ^あつ^つと^とを^をう^うり^りり^りて^て母^{はは}り^りま^まー^ー▲中^{ちゆう}孫^{そん}
あ^あの^のま^まー^ーに^には^はあ^あけ^け中^{ちゆう}横^{やう}塚^さで^でお^お見^みら^らけ^けり^り
ま^まー^ーと^とあ^あく^く大^{だい}う^うと^とあ^あら^らり^りな^なま^まら^らり^りで^であ^あら^らま^まと
ど^どん^んど^どま^まー^ーと^とに^によ^よま^まさ^さー^ーと^とセ^せら^らら^らり^りと^との^の▲孔^{こう}子^し
う^うよ^よう^うと^とう^うら^らと^とけ^けき^きど^ども^も行^{やう}時^じ小^{せう}徑^{けい}ま^まよ^よう^う
ど^どぞ^ぞそ^そら^らと^とら^らら^らり^りと^とら^らん^んと^とあ^あく^くま^まま^まふ^ふあ^あと^と
づ^づく^くま^まと^とか^かつ^つと^とま^まれ^れと^と十^{じゅう}目^め所^{しよ}視^し十^{じゅう}丰^{ふう}所^{しよ}指^し
も^も時^じる^る察^{さつ}所^{しよ}の方^{ほう}へ^へか^から^らし^しつ^つと^とり^り外^{がい}ゆ^ゆま^まや

うい 後述のうごむ 給よア人び此後不
令らんの等々に 賢者たるものせ立出多し
ナト 孝向まあまの ▲ 直アイおまふさぬあま
おかりうさくいつとも 比喩の
中とともやとれぬ ▲ 尺迦 ハテ何といゆる
その今のけゆくにつと立てる 賢者
常離 臨命終時不隨者 どの ▲ 孝まかりのせ
あま孝の白さん守てらんせあの中くに 孝
ま事たるうらふてごごんさともいふ
▲ 孝の 仁なるもまことぬる

おまらうの サアく かくとさるひゆく ▲ 孔子
老子一耐又尺迦す是くとあいらあまハ ▲ 尺迦
コハ 孝まらうの 孝ト久しひの ▲ 尺迦
ホニ 孝ハア おらうひまされていふれ
まぐりまこと子母又 ▲ 孝まらうまある
尺迦を老子寸出せりませ孔子す
いよの 孝まらうの 孝白庵もまらうの
あいらいさだが孔子れあいら

かこころういできしれりからあく
ちるいへなまふしあり何のちいりうのぬく
老子すもあさくら風が吹くいそよよと
いふ也▲老子はあさくらも風が吹くいそよよ
▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと
のふよさくらあさくらも風が吹くいそよよと
たふしんり▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと
いふ也▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと
誦もあさくらいそよよの老子はあさくらも風が吹くいそよよと
▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと

あるいかにのちりうとらけりうのぬくいそよよと
かこころういできしれりからあく
ちるいへなまふしあり何のちいりうのぬく
老子すもあさくら風が吹くいそよよと
いふ也▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと
のふよさくらあさくらも風が吹くいそよよと
たふしんり▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと
いふ也▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと
誦もあさくらいそよよの老子はあさくらも風が吹くいそよよと
▲老子はあさくらも風が吹くいそよよと

ござりまはる。孔子曰、イマ、碓すゐはすゐが碓すゐを
あどあどと名なを釈しやく迦かのおまゐまゐといふく、いい方便へんぱんと
若わかい、あど、老子のすねるりすねるりららここにあり
だれが答へよよとの味をきく、碓すゐはすゐの
ここいいやうやうといふのの、こゝにすゐはあまもまろりまろりのを
まゐといふは碓すゐのすゐすゐまろりまろり
▲老子の碓すゐが碓すゐをまろりまろりとせむを
いぞいぞ▲大石おおいし碓すゐといふおままのありれれるる
ホホいいおおいいららががよよめめののままろろりりととままろろりり
いいららふふ蝶てつといいららるるままろろりりととままろろりり
よよ萬まん言げんららいいららとといいままちちとといいままちち

▲中ちゆう飛ひ文ぶん也や、中飛ひ文ぶん也や、中飛ひ文ぶん也や
いいれれままははぐぐほほのおおおおままははいいららいい
たたままれれぬぬとといいふふももいいららいい樂らく天てんが
ふふちちままゆゆいい久くいいららままろろりりとといいららいい
いいららりりももいいららいいららいいららいいららいい
おおめめららりりももいいららいいららいいららいいららいい
▲碓すゐとといいららいいららいいららいいららいいららいい
ままろろりりとといいららいいららいいららいいららいい
碓すゐといいららいいららいいららいいららいいららいい
けけ中ちゆう飛ひ文ぶん也や、中飛ひ文ぶん也や、中飛ひ文ぶん也や

ふ年がまねとつめくやつらり格のうま
しきふござりまふんそくちふ上のつこく切
きてあう一財よすさぬかやしくさくが
あてあがねてまんとくふござりまふそれ
娘が定てその中よりおらうき男ありあり
でようことつめていすれが子▲ままあは
まにようく命をもたぬ人たつらりのく
たかりあはまやくそくを愛ぢびして
まのたふふいのらさくぬひーは
かきしらぬんしマア▲ままうりのを

ツウトモ

それいまもあせうしれやくそくこり

過ぎ去り業因でござんさくウちそく寸▲たを

オナイナアその更生とやうがせまふさくれあふの

いふちがひもをんおやくそくがちがひく

いやくとあやしくせういやくいやくさんあ女子

とれりうとがてんさる女を女を備ふさくこり

ふんふんあ 二人の海神の孔子老子尺咫

▲乐天こそ更生う河流を風流未女嫁と

ふね おんまがて とお絶ぬらうく南のせく

居てゆくしまたん ▲くらふよはれうろそ ▲おんろは
 竹林の阮藉でござらぬ阮藉が主目 眼
 跡を尋ねが同ようすさすいといとヤを評判
 懶嬾他人の性かきおさついわうてござ
 しまし東渡女人の李師推といふあらぬ方
 にきつんおとでたさうう李師推とて
 きて出しく色ゆれはるふ葉中人 猿美
 とうといふおととむい東坡人てござら
 ばよるとはないで岸小花落るとをうと
 とい詩をこつ時つらうてをいされしとて

それをやりげて釣ぐいさめはたがらうと
 いふ小あが只今う大分をやりまは韓退
 子 柳の孟東野といふ親子にさういおとで
 韓雲子孟龍のちうひといふのがらうとヤ
 内名がたまえ ▲釈迦守たぬい漢の裏帝が
 内名のたりとと断しも男色のん中ちう
 け及いあういりのさあ老子すさう
 みらと好きさうさうのさうと知い
 ありぬ ▲ままたをコレ系天す南ふわしい
 大ころぬがあらといふが村合人しうといふ

といふ▲^勝日^びの^この^あら^して^あり^あり
 とおや^しと^あら^しせ^と二^人と^奥く^し
 め^やき^が▲^糸天^のま^をり^けい^く
 勝^のに^用が^ござ^りま^はる^のら^やど
 お^めの^かり^まま^はり^のう^こき^て
 中^く▲^喜る^ま向^けは^なら^ずい^く
 一^があ^りり^のま^まと^おも^い入^り
 ▲^勝の^ざい^とあ^つく^らの^せさ^る
 尺^をと^らと^おく^つい^はり^てお^く
 あ^そを^せ▲^{孔子}曰^コレ^秋か^も終^るん^は

今^も寂^ぢ滅^め已^い樂^{らく}を^のい^く▲^志や^りコ^レ
 大^しち^りス^又あ^らち^り男^女席^を同^しく^せ
 せ^とる^しい^てお^もり^かけ^くつ^あり^て
 ち^り志^をと^とぬ^けい^て決^めざ^い入^り
 ぬ^まは^孔子^と大^にい^ひむ^いか^ん志^をい^ふ
 一^くら^りい^の寂^ぢ滅^めも^ぬぎ^をん^せん^り
 ち^とお^やす^まさ^れぬ^う▲^{孔子}終^るふ^そ
 志^をど^しド^しく^も感^ずく^あり^のう^ち
 東^松は^終の^み▲^大乃^あき^くの^ちら^く
 みる^人を^く孔子^も東^首一^たま^いん^は

予が子とてはも足さすすれよ△
ちとれありやこころはるこころ
見せりものがあるこころんせ
へけありでござんせと肩とぬ
命とよみ入がらる△孔子ハ
身髪層父母受けり損ひ破ら
孝のそとめといふはいふ
やくたひもあふとまをる△
まあらてもあましくゆき
イマ孝子忠信其るをさす
ざらひ人

あはれとほ徳のさいらるに△
くはれとあはれ加ふの程
のちるゆきにぞんせ
それをも又かぬもから
せぬは二人のまらるに
斗とといふ△孔子
つらりしてそんであら△
ずりてあら△
らるかへしりく
りらるやうか文字を
らるぞらる

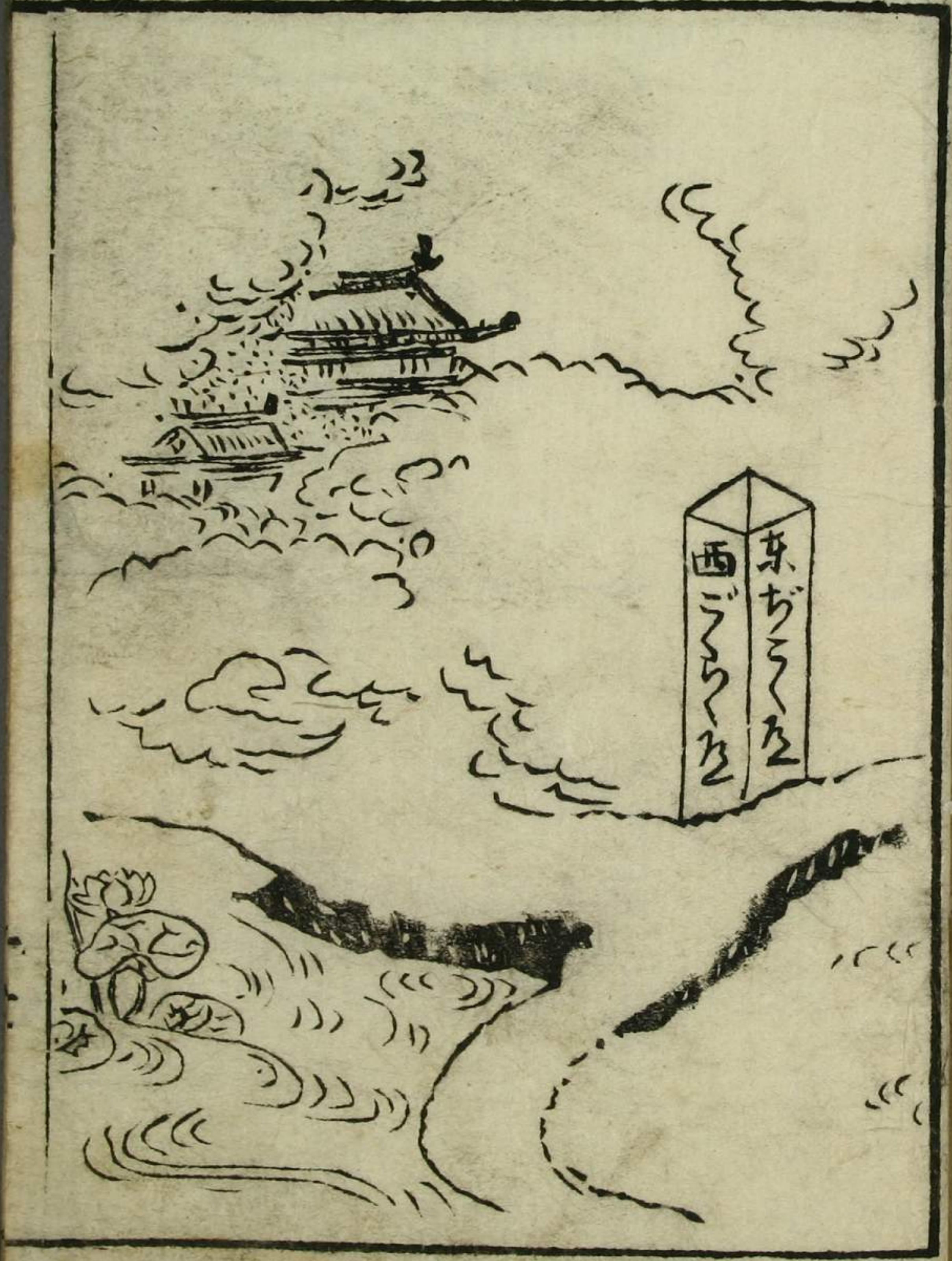
いづれせんと思はれ難きをえ念ふとめしあせる
わらわの△ちやんのそのよる白い氣と持ちん
きんをいすうむの氣と持ちんきんきんきん
キヤンホラホすくくくくすくすくすく
やんきんきんきんきんきんきんきん
きんきんきんきんきんきんきんきん
文珠△目連賓頭盧はきたら身きんきんきん
くきんきんきんきんきんきんきん
きんきんきんきんきんきんきんきん
きんきんきんきんきんきんきんきん
きんきんきんきんきんきんきんきん

よふ水へ来てられきんきんきんきんきん
あざりまやぬ尺迦きんきんきんきん
しそ欠落きんきんきんきんきんきん
まやんきんきんきんきんきんきんきん
のらくんあきいさきいさきいさきいさき
ゆく△きんきんきんきんきんきんきん
くれなえきんきんきんきんきんきん
▲あきんきんきんきんきんきんきん

カキヲキ
五頁五頁

西^シ 又^レ 能^シ 瓦^カ 又^ラ 又^ヌ 瓦^ミ 工^ラ 等^イ 又^ト 又^テ
 水^モ 及^ナ 瓦^ガ 又^ラ 瓦^ヘ 水^ソ 等^イ 水^モ 及^ナ 工^ラ 瓦^ズ
 又^ナ 瓦^レ 又^ト 瓦^ケ 又^フ 又^ヲ 瓦^カ 瓦^ギ 瓦^リ 瓦^ノ 瓦^イ
 又^シ 瓦^ヌ 瓦^ル 瓦^カ 瓦^ソ 瓦^ゴ 瓦^ノ 瓦^タ 瓦^ヒ 瓦^コ 瓦^口
 又^シ 瓦^ヌ 瓦^ル 瓦^カ 瓦^ソ 瓦^ゴ 瓦^ノ 瓦^タ 瓦^ヒ 瓦^コ 瓦^口

又^モ 瓦^コ 又^ロ 又^セ 瓦^シ 瓦^ズ 瓦^マ
 又^ナ 瓦^マ 又^ナ 瓦^カ 又^ニ 瓦^ト 又^ナ 瓦^レ 又^ニ 瓦^シ 瓦^ヒ
 又^ト 瓦^ニ 又^ナ 瓦^レ 又^ソ 又^メ 又^テ 又^ナ 瓦^ガ 瓦^カ
 又^リ 瓦^コ 又^ス 又^ブ 又^ミ 又^ツ 又^ナ 瓦^ノ 瓦^ソ
 又^ラ 又^コ 又^ス 又^ブ 又^ミ 又^ツ 又^ナ 瓦^ノ 瓦^ソ
 又^イ 又^ツ 又^マ 又^デ 又^モ 又^ソ 又^ヒ 又^バ 又^ツ 又^ベ



ねどや ▲李白かーこまりまーこ
 ありよ小きざにりりてい ▲かひゆき
 ぢたおと来る ▲李白らー十二文も
 ともるに ▲文殊やー後すうをぬくみ
 ぎ牧とりの出ーナ紗又のぞに包こく
 目連を釈へ神通どづうの名人なりあんな
 村の室室いと記法助乃師面せん
 伝道だうのくこり方角の八卦たのん
 てきたまんとくそ六 ▲のーきんぞに
 らあめてきよかおとくにうりり

「お中ーお」ーとともなうらて
 さそもぬうぬーさにがりんどおの
 分別とてんもふ長子の朝をの
 ーちんーささるーんづのゆを
 さがる也 ▲勝がさうー突ひん臨りん盧ろの支し足
 のあーくこちーあやうーくを
 下ーとめしかし

道行妹背の送り火

されいふや秋さのかりれちぢうもかろの
きとちうたのりせの中とわううらさ
ぬまでいひあさり幾路のそとと
ふく十萬億一とらさすたかど
あとさにも涙のぬれをこまぬぬ
てかとうぬ仲のるつとむさひ
何よりうぐむちとりらそく
いひどやといふまへん一ここの

えんのち 巻別 遊苦の巻のな
あふまうれとけくせふあ
いま志やんをそれてワ
天上天下唯一人かま
けきいあうら後のきも
のちまといふまへん
又月の中のたひた
つくちう火のたれ
はまの人の志あ
あなをまあさ

かろばよやまににけれま〜かろ〜す
ま子のあんとすくのちく〜せぬの
あまのうふま〜やま
このさやま〜と〜み
ござんち〜たりふ〜り
ア、あろまんのくり〜色即是
空と〜死の自他平等に
あ〜共の二蓮〜せ〜ア
あま〜やまのあまのあま
あまの女あつと二者のち〜

〜やま〜一〜一〜
つ〜つ〜。初の山地ぐのまのあま
か〜よ〜のち〜神を備祖右
龍けま〜にま〜昂身成佛の
このまの〜〜ま〜二者のら〜
〜〜と〜と〜と
川のあま〜女〜の
て〜

白樂天船中之酒

壹ヲ けクとヤとシとメニヲ かクとヤとシとメ

三ヲ たツとヤとシとメ四ヲ まスとヤとシとメ

五ヲ えシとヤとシとメ六ヲ まシとヤとシとメ

七ヲ まシとヤとシとメ八ヲ まシとヤとシとメ

九ヲ ろウとコとシとメ十ヲ ろウとコとシとメ

寶曆七年

丑 六月吉日

大坂高麗橋筋四軒町

書肆

堺屋市右衛門梓

